これからも、「市民の足」は走り続ける

75年間にわたり市民の足として走り続けてきた市バス。現在、乗車人員の減少などから厳しい経営状況にあります。市バスを将来にわたり維持していくため、交通局では経営改善に取り組んでいます。

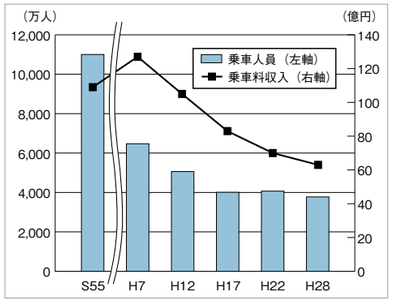
▲昭和30年代（写真上）、昭和40～50年代（写真下）に撮影した市バス

市バスの経営状況

市バスの乗車人員は、移動手段の多様化などにより、昭和55年度をピークに現在は約3分の1にまで減少しており、乗車料収入もこの20年間で半減しています（図1）。

交通局では、人件費の抑制やバス車両使用年数の延長など費用の削減を実施することで、バスの便数を極力減らさないよう取り組んできました。しかし、現在の便数を維持したままでの収支改善は極めて厳しく、平成28年度には全46路線が赤字に陥るという危機的な状況となっています。

（図１）乗車人員と乗車料収入の推移



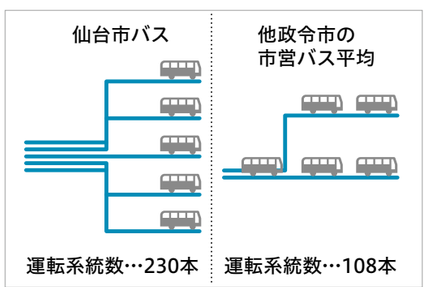
他政令市との比較と市バスの経営課題

仙台市バスと他政令指定都市の市営バスを走行1キロメートル当たりの営業収支で比較すると、他政令市の平均値は費用（619円）と収益（610円）がほぼ均衡しているのに対し、本市は費用（609円）に対して収益（378円）が大幅に少ない状態です。

市域が広いことや、運転系統数の増加等の要望にできる限りお応えしてきたことなどから、本市は市バスの運転系統数が230本と、他政令市平均の108本と比べ、2倍以上となっています（図2）。市中心部から遠ざかるにつれて乗車人員が減り、長い走行距離の割に乗車人員が少ないことが、収益が上がらず、営業赤字になる要因となっています。

経営改善のためには、走行キロ当たりの収支を改善し、事業効率を上げていくことが必要です。

（図２）運転系統数の比較



仙台市自動車運送事業経営改善計画

生産年齢人口の減少などにより、市バス事業を取り巻く環境は、今後一層厳しさを増していきます。

このような状況下でも安定的・持続的に市バス事業を運営していくため、平成29年3月に「仙台市自動車運送事業経営改善計画（平成29年度～33年度）」を策定しました。

この計画に基づき、着実に取り組みを進め、安定した運営を目指していきます。

計画の目標

①「平均乗車密度」の向上

バスの始点から終点までの平均乗車人数である平均乗車密度を、事業の効率性を測る指標とし、これを向上させることを目指します。

※平均乗車密度は、平成27年度が9・5人、平成28年度が9・6人

②「経営健全化団体」への転落防止

資金不足比率（営業収益に対する資金不足額の比率）が20％以上になると、公営企業の倒産状態である経営健全化団体に指定され、より厳しい経営改善に向けた取り組みが国から求められます。経営健全化団体とならないよう、資金不足比率を20％未満に抑制し、資金収支の均衡を目指します。

※資金不足比率は、平成26年度が3・6％、平成27年度が6・6％、平成28年度が9・5％

市バス事業の安定的な運営に向けて

市バスが、将来にわたり市民の身近な公共交通機関としての役割を担っていくために、計画に基づく取り組みを進め、確かな経営基盤の確立を図っていきます。

また、より多くの方にバスを利用していただけるよう、誰もがバスを利用しやすい環境づくりにも取り組んでいきます。

※計画等の詳細は、交通局ホームページでもご覧いただけます

この特集に関するお問い合わせは、交通局経営企画課☎712・8356、FAX224・5506

計画に基づく取り組み

効率的経営に向けて

■需要に応じた便数調整

事業効率を改善するため、乗客数に応じて運行便数を調整し、計画期間中に段階的に約５％削減します。

平成30年４月のダイヤ改正では、そのうち約半分の便数調整を実施しました。

■運賃制度の見直し

収入増加に向けて、特別に低廉としている一部の運賃制度の見直しを検討しています。

市バスを安全で便利にご利用いただくために

交通局では、安全運行を第一としつつ、一人でも多くの方に市バスをご利用いただけるよう、快適なサービスの提供に力を入れています。

■人とまちに優しいバス車両の導入

障害のある方や高齢の方も乗り降りしやすく、国の最新の自動車排出ガス規制に適合した、アイドリング装置付きノンステップバスの計画的な導入を進めています。

▶ノンステップバスは従来のバスと比べて床が低く、歩道と床の高さがほぼ同じです（右）。スロープを設置すると、車いすでの乗り降りもしやすくなります（左）

■地下鉄との連携強化

バスとの乗り継ぎ駅である地下鉄７駅の構内に、バス発車時刻を確認できる液晶モニターを設置しているほか、地下鉄東西線からバスへの乗り継ぎを案内する「地下鉄東西線バスのりつぎ時刻表」を配布するなど、バスと地下鉄を組み合わせて便利にご利用いただくための取り組みを進めています。

■「バス接近表示器」「どこバス仙台」によるバス接近情報の提供

乗りたいバスが今どこを走っているか停留所で確認できる「バス接近表示器」、スマートフォン等で検索できる「どこバス仙台」を運用して、バスをより便利に利用するための情報を提供していきます。

▲停留所の「バス接近表示器」